

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク戸塚保育園
経営主体(法人等)	(株)日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所	〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町4822-12
設立年月日	平成18年4月1日
評価実施期間	平成24年8月 ～ 24年12月
公表年月	平成25年7月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p>【施設の特徴】</p> <p>1. 立地面から見た特色 アスク戸塚保育園は、JR東海道線・横須賀線、横浜市営地下鉄線戸塚駅から徒歩7分、新規開発された駅前商業地を通り抜け、長後街道沿いの矢沢バス停前、大家さんであるお豆腐屋さんの建物の隣に立地している。建物は鉄筋コンクリート2階建ての1、2階を使用している。園周辺には大小の公園が多くあり、日常的に散歩で利用するほか、年長の子も達は少し遠方の踊場公園ログハウスなどに出かけ、豊かな自然に触れることもできる。</p> <p>2. 多様なプログラム 設置法人から派遣される専門講師による体操、英語、リトミックや、職員による幼児教育プログラム、栄養士によるクッキング保育等が、子どもの発達に応じて計画的に取り入れられている。</p> <p>【特に優れていると思われる点】</p> <p>1. 職員の連携と日常的なベテラン職員による新人育成 保育室は、1階を0～1歳児、2階を2～5歳児の保育室として1フロアを背の低い棚で区切って利用しており、職員が他クラスの様子を見渡せ、狭いスペースの中で職員が連携して各クラスの保育プログラムを調整しながら活動を行っている。他クラスが散歩に出かけている間に創作活動を行ったり、声や音楽が騒音にならないように活動内容に配慮するなど、職員同士が声をかけながら協力して保育にあたっている。 また、各フロアにベテラン職員を配属して、新人職員の行動を把握しながら日常的に業務を教え、新人職員は先輩の技術を習得しながら、子どもへの対応を学んでいる。</p> <p>2. 地域支援「ママカUP」講座の開催 地域で子育てする保護者対象に、「子育てを楽しく」「子育てのコツ」等をテーマに、コミュニケーションの専門家である保護者の協力を得て、「ママカUP」講座をこれまで3回開催し、各回10名程度の参加があった。「子育てに役立つ、自分の癒しになる」など、次回開催を望む声も上がっているほか、系列園での開催にも広がっている。</p> <p>【さらに改善が期待される点】</p>	

1. マニュアルの再確認への取り組み

新入職員や職員の異動が多い中、園では、全職員でマニュアルの再研修に取り組んでいます。クラスごとに設置法人作成のマニュアルを読み込み、確実に実行できているかを確認し、さらに園で実行するためのよりよい方法を探っているところですので、それらの早期実行が期待されます。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 配慮を要する子への個別指導計画の作成と共有化

幼児で特に配慮が必要な子については、認識はしていますが個別指導計画の作成には至っていません。特にきめ細かな指導が必要な子については、設置法人の発達支援チームに相談して内容を記録していますので、それらを活用して、配慮を要する子の発達を見据えた個別計画を作成し、目標を設定して評価見直しに繋げ、また、職員で情報を共有することが望まれます。

2. 保護者とのコミュニケーションのあり方の見直し

今年度、園では、職員同士、職員と保護者のコミュニケーションを課題として取り組んできました。その結果、職員同士は話す機会が増え、保育の連携も以前に増して取れてきましたが、保護者アンケートによると、30%が、送迎時の情報交換に不満足と回答しています。子どもの毎日の様子の説明は、保護者との信頼関係を築く大切な手段ですので、再考が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

- ・業務マニュアルに、子どもとの話し方・接し方の項目があり、職員会議で子どもの名前を呼び捨てにしないなどを確認し、保育中に子どもに対して威圧的な言葉かけがあった場合は、園長がその場で注意したり、職員会議で事例を提案して、話し合っている。
- ・日常的に子どもの考えを引き出す穏やかな言葉で子どもが納得するまで良く聞く、子どもの話の腰を折らないなどに心がけている。
- ・子どもの尊厳を守ることに園長が研修で学んだことや、言葉遣いが虐待にあたらないかなどを、職員会議で話し合っている。
- ・1フロアで2～5歳児が過ごしているため、子どもが一人で過ごせるような場所の設定が難しいが、家具の置き方を工夫して子どもが一人で落ち着いて過ごせるスペースを確保している。
- ・個人情報の取り扱いや守秘義務については、全職員が入職時、研修を受けて周知し、誓約書を提出し、保護者には入園説明会に説明している。
- ・個人情報の記載されている書類は、事務所の施錠のできるロッカーに保管されている。
- ・虐待防止マニュアルがあり、子どもの心身の状況の変化、入浴の有無、朝や着替え時に観察をし、虐待があった場合や、異状があった場合は小さなことでも記録をして、設置法人、都筑区福祉保健センター、北部児童相談所等の関係機関に常時連絡できる体制を整えている。
- ・名前のシールの色・形や行事での役割・配役、順番や列など日常の保育の中で子どもの性別による区別をしていない。

2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・おもちゃや絵本は子どもの手の届く棚に収納し、自由に取り出して遊べるようにしている。
- ・4、5歳児クラスは遊びの幅が広がるよう区切りをなくして広いスペースを作り、マットを敷いてコーナーを設定し、落ち着いて遊べるようにしている。乳児クラスでは、寝る場と遊びの場を区切って活動できるようにしている。

- ・園庭でオクラやピーマンの栽培を行い、2歳児は室内でカイワレ大根を育て、給食に取り入れている。
- ・自分の意思を表すことのできる幼児クラスの子同士の問題では、子ども同士のやり取りを見守りながら仲介して相手の思いを伝え、子ども同士で解決できるように支援している。乱暴な言葉や傷つける言葉についてはその場で注意している。
- ・子どもの主体的な活動を大切に考え、子ども達の遊び広がりを見守っている。
- ・職員は、子どもがのびのび過ごせるように優しい言葉遣いで接し、子どもの考えを引き出せる言葉かけを心掛け、信頼関係の構築に努めている。
- ・天気の良い日や午後でも時間が許せば、活動の目的に沿って大小の公園に積極的に散歩に行っている。年長児はやや遠方の雑木林等自然の多い公園で散歩したり、年少、年中児は近くの公園でかけっこなどを行っている。
- ・3～5歳児を3つのグループに分けて異年齢でお神輿を作ったり、お店屋さんごっこを楽しんでいる。
- ・職員は子どもと同じ席で昼食をとり、「おいしいね」「もう少し食べてみようか」などと声かけをしている。子どもが苦手な食材は「一つ食べてみようか」等と声かけをしているが、無理強いすることなく、強制したり叱ったりしていない。
- ・食器は強化磁器を使い、形状や大きさは子どもの年齢に合わせて変え、
- ・子どもの嗜好を、保護者に聞いたり、子どもの食べる様子から職員が把握し、完食できるように子ども一人ひとりの盛り付ける量を加減している。
- ・乳児はパーテーションで仕切りを作り、眠りの場を確保している。幼児は食事後テーブルを片付けて布団を敷いて午睡に入る。職員が絵本の読み聞かせをして落ち着いて午睡に入れる雰囲気を作っている。
- ・子ども一人ひとりの排泄パターンを把握し、活動の切り替え時にトイレに誘ったり、子どもの様子を観察して声かけをするほか、子どもが行きたい時に自由にトイレに行っている。

3.サービスマネジメントシステムの確立

- ・基本方針は「子どもの自ら伸びようとする力、後伸びする力を育てる保育を」「子どもの感受性や好奇心を自然な形で伸ばす五感で感じる保育の充実を」、園目標は「元気なあいさつ・明るい笑顔」「花や緑を大切にしよう」「みんなの町をきれいにしよう」とし、子どもを尊重したものとなっている。
- ・運営理念、サービス内容、給食への取組姿勢、園行事などについての詳細な情報を、設置法人のホームページで写真を交えて情報提供している。
- ・保育課程は、子どもの利益を最優先し、保護者の就労に配慮して延長保育を実施するほか、地域の公園や寺などの情報を収集して作成している。
- ・クラスごとに全職員の意見を聞きながら前年度の子どもの様子に配慮して保育課程を見直し、職員会議で話し合っている。
- ・保育課程は保護者へは年度初めの保護者会で説明し、変更があった場合は園だよりや文書で伝えている。
- ・保育課程に基づき、年間指導計画、月間指導計画、週案を作成し、評価、反省を行い、次の計画に反映させている。
- ・乳児（0～2歳）は連絡帳で保育園と保護者との連携を密に情報交換している。幼児（3～5歳児）は、希望者には連絡帳を用意してもらい、日々の様子を伝えている。
- ・健康管理マニュアルに基づき、子ども一人ひとりの健康状態を把握し、健康調査票を作成して個別ファイルに纏め、必要時職員はいつでも見られるよう事務所に保管している。
- ・毎月の職員会議で気になる子のケース会議を開催し、配慮が必要な子ども

	<p>と他の子ども達のかかわりなどについて話し合い、記録している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が研修で得た発達障がいなどの最新情報や設置法人の発達支援チームの巡回指導を他の職員と共有し、保育に活かしている。 ・入園時に配付している「入園のご案内（重要事項説明書）」に苦情解決窓口として設置法人、戸塚区福祉保健センター及び第三者委員の連絡先を明記しているほか、第三者委員の氏名と連絡先を玄関に掲示し、直接申し立てができるようになっている。
<p>4.地域との交流・連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に夏祭り等の園行事のポスターを園のフェンスに掲示して参加を呼び掛けるほか、町内会長、隣接商店主を招待している。 ・地域との交流を図るための取り組みとして、園目標に「みんなの町をきれいにしよう」を掲げ、散歩で行った公園では子どもたちとゴミ拾いに取り組んでいる。 ・戸塚消防署見学や踊場公園こどもログハウスに行ったり、年長児は、クッキング保育の材料を近隣のスーパーで買い物している。南戸塚地域ケアプラザと連携し、敬老の日行事「ふれあい会」に、年1回計画的に参加している。 ・園主催の講演会のチラシを、園フェンスや近くのバス停、マンションの入口に貼ったり、戸塚区地域子育て支援拠点ととの芽や横浜フォーラムに置いてもらい、情報提供に努めている。 ・戸塚区役所子育て支援課、戸塚地域療育センター、南部児童相談所と連携できる体制がある。 ・職員は、子育て支援についての研修に参加したり、園長会議での話や、園長が都筑区幼保小連絡会に出席して得た地域の情報を、職員会議等で話し合っている。年長児が戸塚小学校の招待を受け、学校見学や1年生と交流している。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園情報は、設置法人のホームページにサービス内容や経営・運営状況を公開しているほか、まみたんネットにも、園情報を提供している。 ・業務マニュアルや就業規則に倫理規定があり、職員がいつでも振り返れるように事務所に保管している。また、入社時に法人代表による法令順守、倫理などについて研修を受けている。 ・定期園長会議で報告される他施設で発生した不正行為などの情報を全職員に周知徹底し、不正防止を啓発している。 ・設置法人のホームページや省エネに関するポスターで、環境に関する考え方を職員や利用者に周知し、各園での取り組みに活かしている。 ・事業運営に影響のある情報収集、分析は設置法人の担当部署で行い、収集・分析された情報は園長会議で検討され、園に持ち帰り、必要に応じてリーダー会議や職員会議などで話し合っている。 ・重要な改善課題として、今年度は職員間及び保護者とのコミュニケーションを挙げ、職員全体で取り組んでいる。 ・「中長期的事業計画」（24年度から28年度まで）として、清潔・遊びなどの項目別に目標を設定し、半期ごとに反省を行うことになっている。 ・次代を担う幹部職員教育は、設置法人で計画的に実施して人材の育成を図っている。 ・設置法人は、事業運営について業界関連機関や専門機関などから積極的に意見を取り入れ、園運営に反映している。

6. 職員の資質向上の促進

- ・設置法人が作成する「人材育成ビジョン」があり、職員に対する役割を期待水準として具体的な項目をあげて示している。
- ・園長は、職員会議で業務改善の提案を聞く・個々の職員が年2回（前期・後期）記入する「自己査定（自己評価チェック）」をもとに園長が面談して、指導・アドバイスを行う仕組みがある。
- ・設置法人がエリアごとに開催する年齢別研修で得た他園での取り組みは、個々の職員が自身の振り返りに活用するほか、園長会議で得た他園の取り組みも参考にして業務改善に取り組んでいる。
- ・職員会議やクラス会議で指導計画の振り返りや職員の自己評価をもとに話し合い、年度末の職員会議で1年間の反省を行い、次年度への課題を話し合い、年度初めに今年度取り組む課題を明確にしている。
- ・第三者評価を毎年受審して、理念や基本方針、保育課程に沿って振り返り、自己評価を行う中で、全職員・園の課題を抽出して、改善に取り組んでいる。
- ・第三者評価結果は、横浜市ホームページ等で公表している。
- ・園長は、職員会議で業務改善の提案を聞く機会を設け、またフロアリーダー会議で出た意見や要望を聞いている。
- ・園長は、随時職員面談を行うほか、年2回の定期面談で職員の満足度や要望などを把握している。またフロアリーダー会議で出た意見や要望を聞いている。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="183 398 708 459">Ⅰ－１ 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> <div data-bbox="236 577 582 683"></div>	<ul style="list-style-type: none">・設置法人の基本方針は「子どもの自ら伸びようとする力、後伸びする力を育てる保育を」「子どもの感受性や好奇心を自然な形で伸ばす五感で感じる保育の充実を」、園目標は「元気なあいさつ・明るい笑顔」「花や緑を大切にしよう」「みんなの町をきれいにしよう」とし、子どもを尊重したものとなっている。・運営理念と園目標は、玄関入口に掲示するほか全職員は入社時に研修を受け、年度初めの職員会議や日々の業務のなかで確認しているが、変更があった運営理念は周知されていない。・上記基本方針や運営理念を念頭に、日々子ども本位のサービス提供に努めている。・保育課程は、子どもの利益を最優先し、保護者の就労に配慮して延長保育を実施するほか、地域の公園や寺などの情報を収集して作成している。・クラスごとに全職員の意見を聞きながら前年度の子どもの様子に配慮して保育課程を見直し、職員会議で話し合っている。・保育課程は保護者へは年度初めの保護者会で説明し、変更があった場合は園だよりや文書で伝えている。・保育課程に基づき、年間指導計画、月間指導計画、週案を作成している。・職員は、子どもの話に耳を傾け、分かりやすい言葉で丁寧に説明し、また、子どもの言葉や態度、表情から子どもが何をしたいのかを汲み取り、指導計画の見直しに活かしている。子どもが主体的に活動できるように、意見を聞いたり活動の様子から自由遊びの時間を延長する等、計画には柔軟性を持たせている。 <p data-bbox="726 1288 981 1317"><コメント・提言></p> <p data-bbox="726 1321 1476 1379">変更された設置法人の運営理念を全職員で共有し、日々の保育に取り組むことが望まれます。</p>

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



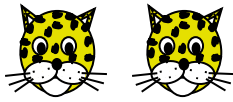
- ・園長・中堅職員・必要に応じて栄養士が、保護者（子ども同伴）と入園前面談を行い、子どもの遊んでいる様子を観察し、気になることや既往症等について聞き取って面接シートに記録し、家庭から提出してもらった子どもの生育歴や家庭の状況などの書類と児童票にまとめている。
- ・親子面接の様子を全職員に報告し、各書類と共に日々の保育に活かしている。
- ・入園面接時にならし保育の必要性を説明し、乳児の場合は就労状況に配慮しながら親子同伴のならし保育を行っている。幼児では、子どもの集団生活の経験などを考慮しながら話し合っている。
- ・0, 1歳児の新入園児については、4月当初は主担当職員を決め、子どもとの信頼関係が構築できるようにしている。
- ・子どもの心が安定するような物や哺乳瓶、マグカップなど家庭で慣れ親しんだものを持ち込めることにしている。
- ・乳児（0～2歳）は連絡帳に必要事項と子どもの様子を詳細に記載し、保育園と保護者との連携を密にしている。幼児（3～5歳児）は、希望者には連絡帳を用意してもらい、日々の様子を伝えている。
- ・在園児が落ち着いて過ごせるように子どもの気持ちを汲み、園長、主任もクラスに入って子どもたちと遊ぶようにして、子どもの安定した生活を支援している。
- ・年齢別に年間指導計画、月間指導計画、週案を作成し、評価、反省を行い、次の計画に反映させている。
- ・指導計画はクラスの担任が、前年度、前月の評価、反省を行い、園長、主任が確認している。
- ・評価、改訂にあたっては、保護者会、個人面談、アンケート、送迎時での保護者の意向も反映させている。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・園内や園庭の清掃は衛生マニュアルに基づいて行い、清潔に努めているが、園庭の雑草管理が不徹底である。
 - ・室内に24時間換気システムを導入して気になる臭いを取り除き、掃除の際は、扇風機や安全に配慮しながら非常口扉を開放し、換気に努めている。
 - ・各保育室の温湿度は、温室時計、子どもの活動の様子や職員の体感などで調整している。必要に応じてエアコン・空気清浄機・加湿器も利用している。
 - ・各保育室とも窓を塞ぐような家具の配置はされておらず、保育室は窓が多く取られ、陽光は十分である。ただし、2歳児保育室は窓が片側面のみで、照明器具で照度を確保している。
 - ・保育室はオープンプラで、職員はとなりのクラスを常に意識し、声や音の大きさを話し合っているほか、園長や主任が指導している。
 - ・0歳児の沐浴にはビニールバスを利用し、1・2階に沐浴設備と温水シャワーを設置して、いつでも使用できるようになっている。各設備は衛生管理マニュアルに基づいて清潔を保ち、消毒も行っている。
 - ・0歳児保育室はパーテーションやサークルなどで空間設定を工夫し、1歳児保育室ではマットや机でコーナースペースを作り、小集団保育ができるように工夫している。
 - ・食べる、寝る、遊ぶの機能別空間は、食事後にフローアを手早く清掃して布団を敷き、寝るスペースを整えている。
 - ・幼児クラスは1フロアで、常に異年齢で交流できている。
- <コメント・提言>
園庭整備の努力は認められますが、雑草はすぐにはえてきますので、定期的な除草が望まれます。

I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児全員にくねらい、内容、配慮、評価、反省>で構成した個別指導計画を作成している。
- ・幼児についても特別な課題がある場合には、発達支援チームに相談し、相談シート・状況調査票・巡回相談記録を作成しているが、定期的な目標設定、評価見直しまでには至っておらず、個別指導計画とまでは言えない。
- ・個別指導計画は月一回を目安に評価・見直しするほか、子どもの発達状況や保護者からの情報も考慮して随時見直し、保護者の同意を得ている。
- ・小学校入学時には保育所児童保育要録を送付している。
- ・生育歴や家庭状況などは、保護者から入園時に提出してもらう「家庭調査票」と入園前面接で聞いた「面接シート」、「児童票」等の書式が整っている。
- ・子ども一人一人の経過記録、身体測定記録、健康診断などの成長記録も個別にファイルし、ファイルは職員はいつでも見られるように事務所に施錠保管している。
- ・重要事項は児童票に記録し、進級時には個別ファイルを中心に、担任同士で適切に引き継いでいる。

<コメント・提言>
特別な課題がある幼児については、相談シートなどを作成されていますのでそれらを活用し、目標設定などを明確にして取り組めるよう、個別指導計画の作成が望まれます。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み

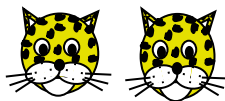


- ・職員会議で気になる子のケース会議を行い、配慮が必要な子どもと他の子ども達のかかわりについて話し合い、職員会議録に記録している。
- ・職員が研修で得た発達障がいなどの最新情報や設置法人の発達支援チームの巡回指導を他の職員と共有し、保育に活かしている。
- ・玄関の靴脱ぎ場の段差はほとんどなく、1・2階フロア内にも段差はない。
- ・虐待の定義や早期発見のポイントが記載された虐待マニュアルがあり、クラスごとに読み込んでいる。園長が、職員と子どもの関わりの中で、虐待にあたらないかを注意喚起している。
- ・虐待が明白になった場合には、設置法人、南部児童相談所、戸塚区福祉保健センターなどの関係機関と連絡・相談する体制が整っている。
- ・子どもの様子や着替え時の観察、保護者に気軽に声をかけて心配事などを聞いて虐待予防に努めている。
- ・全職員は、アレルギーに関するマニュアルにより研修を受け、食物アレルギーや食中毒、虫さされや草アレルギーを周知している。
- ・除去食申請に対する主治医意見書に従い、職員、栄養士は保護者と面談し、事前に献立表を配付して保護者にチェックしてもらい、除去食や代替食を提供している。提供の際は、専用トレーにラップを掛けて名前を書き、職員と栄養士とがダブルチェックしている。
- ・外国人保護者の生活習慣や考え方を尊重して、日本の習慣に合わせているので、日本の習慣を伝えている。絵などを利用し、理解しているか確認しながら分かりやすい言葉での会話に努めている。
- ・子どもたちには、絵本やカードなどを通して世界にはいろいろな国があることを知らせている。

評価分類

評価の理由（コメント）


I-6 苦情解決体制



- ・苦情担当は園長、受付窓口は主任であり、保護者会で説明している。
- ・入園時に配付している「入園のご案内（重要事項説明書）」に苦情解決窓口として設置法人、戸塚区福祉保健センター及び第三者委員の連絡先を明記しているほか、第三者委員の氏名と連絡先を玄関に掲示し、直接申し立てができるようになっている。
- ・保護者会やクラス懇談会、行事後のアンケートなどで保護者からの意見・要望や苦情を聞き、意見箱も玄関隅に筆記具と共に設置している。第三者評価の保護者アンケート結果も参考にしている。
- ・個人面談や連絡帳からも意見・要望を汲み取り、また、職員は笑顔で保護者を迎えることに努め、気軽に思いを表明できるよう配慮している。
- ・苦情処理マニュアルが整備され、第三者委員を交えて対応する仕組みができています。
- ・園単独で解決が困難な問題には、設置法人、戸塚区福祉保健センターこども家庭支援課などと連携し対応できる仕組みができています。
- ・要望や苦情の解決策は、職員会議で情報を共有し、早急に対応が必要な時は伝達ノートに書いて、全職員に情報が行きわたるようにしている。
- ・過去の苦情・トラブルは記録（クレーム受理表）として残し、全職員が共有し、再発防止に活用することになっているが、現在までに事例はない。

＜コメント・提言＞
現在までクレーム受理表に記載する苦情はないとされていますが、小さな要望や苦情でも記録に残し、データを蓄積して運営に活かすことが望まれます。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="185 248 517 280">Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none">・おもちゃや絵本は子どもの手の届く棚に収納し、自由に取り出して遊べるようにしているが、合同保育の時はスペースが十分取れないので、子どもの意見を取り入れて、職員が提供している。・今年度は4、5歳児クラスは遊びの幅が広がるよう区切りをなくして広いスペースを作り、マットを敷いてコーナーを設定し、落ち着いて遊べるようにしている。乳児クラスでは、寝る場と遊びの場を区切って活動できるようにしている。・園庭でオクラやピーマンの栽培を行い、2歳児は室内でカイワレ大根を育て、昼食のおかずで食べた。・自分の意思を表すことのできる幼児クラスの子ども同士のトラブルでは、子ども同士のやり取りを見守りながら仲介して相手の思いを伝え、子ども同士で解決できるように支援している。乱暴な言葉や傷つける言葉についてはその場で注意している。・子どもの主体的な活動を大切に考え、子ども達の遊びの広がりを見守っている。・職員は、子どもがのびのび過ごせるように優しい言葉遣いで接し、子どもの考えを引き出せる言葉かけを心掛け、信頼関係の構築に努めている。・天気の良い日は、活動の目的に沿って大小の公園に積極的に散歩に行っている。午後でも時間が許せば散歩に出かけている。年齢に応じて、年長児はやや遠方の雑木林等自然の多い公園で散策したり、年少、年中児は近くの公園でかけっこなどをするほか、体操教室では年齢に応じた運動プログラムが組まれている。・3～5歳児を3つのグループに分けて異年齢でお神輿を作ったり、お店屋さんごっこを楽しんでいる。・健康上外遊びができない時は、室内で静かに過ごしている。

II-1 保育内容[生活]



- ・職員は子どもと同じ席で昼食をとり、「おいしいね」「もう少し食べてみようか」などと声かけをしている。子どもが苦手な食材は「一つ食べてみようか」等と声かけをしているが、無理強いすることなく、強制したり叱ったりしていない。
- ・子どもたちが配膳や片付けをしたり、月1回クッキング保育を設定し、食材の皮をむいたり、野菜を自分達で調理し、食事に関心を持てるようにしている。
- ・献立には旬の物を取り入れ、月1度の「ランチの日」では、特に盛付けを工夫している。
- ・食材は放射能測定をして、安全を確認している。米は契約農家から取り寄せ、食材の産地を明確にして玄関に掲示し、保護者に伝えている。
- ・食器は強化磁器を使い、形状や大きさは子どもの発達段階に合わせて変えており、コップや箸などのプラスチック食器の交換は栄養士が担当して行っている。
- ・栄養士は積極的にクラスをまわり、子どもの食べる様子を見ている。子どもの嗜好は、入園時や送迎時に保護者に聞いたり、子どもの食べる様子から職員が把握し、完食できるように子ども一人ひとりの盛り付ける量を加減している。
- ・献立表は前月末日までに保護者に配布し、旬の食材を紹介している。
- ・給食試食会は年1回行い、保育園での配慮を伝える他、栄養士への質問を事前にアンケートでとり、当日答えている。
- ・乳児はパーテーションで仕切りを作り、眠りの場を確保している。幼児は食事後テーブルを片付けて布団を敷いて午睡に入る。職員が絵本の読み聞かせをして落ち着いて午睡に入れる雰囲気を作っている。
- ・子ども一人ひとりの排泄パターンを把握し、活動の切り替え時にトイレに誘ったり、子どもの様子を観察して声かけをするほか、子どもが行きたい時に自由にトイレに行っている。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・健康管理マニュアルに基づき、子ども一人ひとりの健康状態を把握し、入園時「お子様の状態について」等に子どもの健康状態を書面で提出してもらうほか、健康調査票を作成し、既往症、予防接種、かかりつけ医、緊急連絡先などの情報を個別ファイルにまとめ、必要時職員はいつでも見られるよう事務所に保管している。
- ・健康診断・歯科健診の結果はプリントで保護者全員に伝えている。毎月行う身体測定の結果は、乳児は連絡ノートに、幼児はシール帳の記入欄に記載して、保護者に報告している。
- ・食後の歯磨きは0歳児の歯の生えた子から行っており、乳児は保育士が手を添えて仕上げ磨きをし、幼児には磨き方を指導している。
- ・感染症マニュアルに感染症に対する対応が記され、入園のご案内に「感染症に関するお知らせ」を記載し、入園説明会・年度初めの運営委員会で、感染症の登園停止基準や保育中の発生時の対応などについて保護者に説明している。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理
[衛生管理]



・衛生管理マニュアルがあり、クラスごとに職員間で読み合わせをし、マニュアルは、園が個別に有する事情に合わせて見直しの提案をし、設置法人が各園の意見を参考に、見直しをしている。
・清掃の結果は保育室清掃記録に記載している。室内・室外は清潔に保たれている。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理
[安全管理]



・クラスの仕切りとしているロッカーは可動式で、背の高いロッカーの突っ張り棒が外されていた等、地震対策に不十分な点が見られた。
・避難訓練は地震・火事を想定して、毎月実施している。地域の避難場所は戸塚小学校であることを入園のご案内に記載して、保護者に説明している。
・4名の職員が、赤十字幼児安全法支援員養成講座を受講し、幼児救命救急資格を取得している。
・病院・救急センター等の医療機関は緊急連絡先として事務所に貼りだし、保護者の連絡先やかかりつけ医を記載した緊急引渡票を作成し、緊急時に備えている。
・職員会議で事例研究・再発防止対策を話し合い、職員間で共有して改善策を実行している。
・玄関は電子錠になっていて、事務所で来園者の顔を確認してから解錠し、不審者の侵入を防止している。
・散歩の時も職員が緊急通報装置を携帯している。日中の連絡先は戸塚警察署としている。夜間は警備会社と契約し機械警備をしている。
<コメント・提言>
突っ張り棒が常に機能しているかの確認や、クラスの仕切りとしているロッカーには滑り止めをする等の地震対策が望まれます。

評価分類

評価の理由（コメント）

Ⅱ－3 人権の尊重



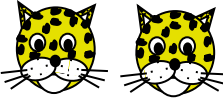

- ・業務マニュアルに、子どもとの話し方・接し方の項目があり、職員会議で子どもの名前を呼び捨てにしないなどを確認し、保育中に子どもに対して威圧的な言葉かけがあった場合はその場で園長が注意したり、職員会議で園長が事例を提案して話し合っている。
- ・日常的に穏やかな言葉で子どもが納得するまで良く聞く、子どもの話の腰を折らないなどに心がけている。
- ・職員が子どもの尊厳を守ることなど園長が社内研修で学んだことを職員に伝え、言葉遣いが虐待にあたらないかなどを職員会議で話し合っている。
- ・1フロアで2～5歳児が過ごしているため、1クラスのスぺースが狭く、子どもが一人で過ごせるような場所の設定が難しいが、家具の置き方を工夫して子どもが一人で落ち着いて過ごせるスペースを確保している。
- ・虐待対応マニュアルがあり、全職員が入社時の研修を受け、職員会議・研修等で、確認している。
- ・子どもの心身の状況の変化、入浴の有無、朝や着替え時に観察をし、虐待があった場合や、異常があった場合は小さなことでも記録をして、設置法人、戸塚区福祉保健センター、南部児童相談所等の関係機関に、常時連絡できる体制を整えている。
- ・日頃から保護者との会話を大切に、家庭での様子をよく聞くようにし、家庭支援の必要な保護者には園長や担任が積極的に声をかけ、相談に乗ったり、情報提供をして、虐待防止に努めている。
- ・個人情報の取り扱いや守秘義務については、全職員が入職時、研修を受けて周知し、誓約書を提出し、保護者には入園説明会に説明している。
- ・名前のシールの色・形や行事での役割・配役、順番や列など日常の保育の中で子どもの性別による区別をしていない。

Ⅱ－４ 保護者との交流・連携

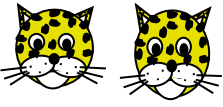



- ・入園のご案内には運営理念・園の保育方針を記載している。理念・園目標は入口に掲示し、年5回開催の保護者会、個人面談等で保育方針を説明している。
 - ・保護者には行事後アンケートを取り、年度末には年間を通しての保護者意見を聞き、保育方針の理解度の把握に努めている。
 - ・0歳～2歳の乳児には個別に連絡帳でその日の様子を伝え、保護者と情報交換をしている。
 - ・園では送迎時に子どもの様子を保護者に伝えているが、保護者アンケートでの不満の回答が多かった。
 - ・相談を受ける際には、事務室をカーテンで仕切り、プライバシーに配慮している。相談を受けた職員は園長・主任に報告し、助言を受けることができる体制がある。相談記録は児童票に綴じ込み、職員はいつでも見ることができ、継続的なフォローをしている。
 - ・園だよりを毎月発行し、行事のお知らせ等を掲載し、クラスだよりでは日常の保育の様子を知らせている。
 - ・個別面談は年2回開催するほか、保護者会の日にはクラス懇談会を併せて実施し、子どもやクラスの保育内容を伝えている。
 - ・年間行事予定は年度初めに保護者に配付している。変更があった場合は早急に張り紙をして知らせ、保護者が予定を立てやすいようにしている。
 - ・保護者組織といえる体制には至っていない。
- <コメント提言>
- ・保護者アンケートでは送迎時に子どもの様子に関する説明について不満足との意見がありますので、職員の送迎時の対応を見直すことが望まれます。
 - ・保護者有志の集まりが保護者組織設立に繋がるよう支援し、保護者の意向を汲み取る努力が望まれます。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会長、近くの商店、寺院とのコミュニケーションはあるが、地域の要望の把握までには至っていない。 ・育児相談は随時行っており、園の見学も兼ねて離乳食に関する相談等があった。 ・職員会議で地域の子育て支援ニーズ把握のため「おひさまサロン」の行事を検討している。 ・地域住民対象に、講師を依頼し、「子育てを楽しく」「子育てのコツ」等のテーマで、ママ力アップ講習会を3回実施し、毎回10名程度の参加があった。 <p><コメント・提言> 夏祭り等の園行事に地域の方の参加がありますので、その機会を利用して地域ニーズの把握するなどの工夫をされてはいかがでしょうか。</p>
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談は水曜日及び随時受け付けていることを園玄関に貼りだしているが相談実績はない。 ・園主催の講演会のチラシを、園フェンスや近くのバス停、マンションの入口に貼ったり、戸塚区地域子育て支援拠点ととの芽や横浜フォーラムに置いてもらい、情報提供に努めている。 ・月1回戸塚区民間保育園の園長会で地域ニーズについて情報交換を行っている。 ・相談内容によって、戸塚区こども家庭支援課、戸塚地域療育センター、南部児童相談所と連携できる体制がある。 <p><コメント・提言> 育児相談は、子育て世代が利用しやすいように、広く情報提供するなど、利用対象者への周知が望まれます。</p>

評価領域Ⅳ 開かれた運営


評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に夏祭り等の園行事のポスターを園のフェンスに掲示して参加を呼び掛けるほか、町内会長、隣接商店主を招待している。 ・南戸塚地域ケアプラザと連携し、敬老の日行事「ふれあい会」に、年1回計画的に参加している。 ・幼保小の会議に出席して情報交換に努めるとともに、年長児が戸塚小学校の招待を受け、学校見学や1年生と交流している。 ・地域との交流を図るための取り組みとして、園目標に「みんなの町をきれいにしよう」を掲げ、散歩で行った公園では子どもたちとゴミ拾いに取り組んでいる。 ・戸塚消防署見学や南戸塚地域ケアプラザ、踊場公園こどもログハウスを利用している。 ・園庭が手狭なため、できる限り毎日散歩に出かけ、地域の方と挨拶を交わすほか、他園の子どもたちと一緒に遊んだり、年長児は、クッキング保育の材料を近隣のスーパーで買い物している。 ・小学生から依頼された小学校のバザーやお祭りのポスターを園内に貼りだし、また、横浜フォーラムのチラシ・とつかの子育て支援応援ガイド「とことこマップ」等を園に置いて、保護者が参加しやすいように配慮している。 <p>＜コメント・提言＞ 地域資源としての園の役割として、施設開放や備品の貸し出しの検討が望まれます。</p>
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人のホームページで運営理念、サービス内容、給食への取組姿勢、園行事などについての詳細な情報を、写真を交えて情報提供している。 ・戸塚区福祉保健センターや、戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」に「入園のご案内」を置記、また、まみたんネットに、園情報を提供している。 ・見学希望者には、入園のご案内で保育内容や利用条件等を説明し、問合せや見学には園長・主任が担当して説明している。 ・利用希望者の問い合わせには常時見学ができることを伝え、見学希望日程の要望に応え、園長が担当して案内し、同年齢のクラスに入って遊んでもらったり、誕生会などの園行事の見学にも誘い、質問に答えている。



IV-3 実習・ボランティアの受け入れ





- ・ボランティア受け入れマニュアルがあり、受け入れに際しては、マニュアルに従って事前にオリエンテーションを行い、プライバシー保護、守秘義務については、理解・了解を得たうえで誓約書の提出を受けている。
- ・職員はマニュアルを周知しており、園長がボランティアを事前に職員に紹介し、保護者には当日張り紙で伝え、子ども達にも当日紹介している。
- ・担当は園長及び主任とし、今夏学生ボランティア1名が保育補助として活動し、受け入れに関する記録は専用ファイルに綴じ込んで残している。
- ・ボランティア受け入れは職員の業務見直しにも役立っており、保育を振り返る機会になっている。
- ・実習生受入マニュアルがあり、園の方針、子ども達や保護者への配慮、実習内容等の説明を行い、プライバシー保護、守秘義務については理由を説明して理解・了解を得たうえで誓約書の提出を受けている。
- ・実習生受け入れ時は、職員には事前に趣旨説明をおこない、保護者と子ども達には当日伝えている。
- ・担当は園長で、実習生受け入れに関する記録は学校からの依頼状等と共に専用ファイルに綴じ込んでいる。
- ・実習は、学校側の実習プログラムの希望を聞いて対処し、担当クラスの担任とは常に話し合いの時間を設け、実習終了後には園長・担当職員と意見交換を行っている。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は常に人材構成についてチェックし、不足がある場合は設置法人に要請している。法人は、運営に必要とする人材構成を包括的に管理している。 ・設置法人は、人材育成ビジョンと、職員の段階層別研修計画を作成し、人材育成を行っている。 ・職員の育成を図る取り組みとして、職員が、個別目標と半期（前期・後期）ごとに個人別研修計画を作成し、自己評価するとともに、園長面談で目標設定や達成度等について指導・アドバイスを受け、見直す仕組みがある。 ・段階別研修計画には、対象職員が参加することになっている。研修は、常勤職員・非常勤職員を問わずに参加でき、研修参加後は、レポートを作成して回覧し、全職員で共有している。 ・外部研修として横浜市主催の障がい児・幼保小の研修に園長が参加し、横浜市川上保育園の見学も行っている。 ・業務マニュアルは非常勤職員も常勤職員と同様に目を通せるように事務所に保管し、いつでも確認できるようにしている。 ・常勤とパート職員との組み合わせを考慮してシフトを編成している。 ・非常勤職員には、園長が職員会議や他の情報を適時文書で伝達し、研修内容も伝えている。 ・主任が非常勤職員の指導担当であり、保育に係る事項の指導・アドバイスをを行っている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の職員が年2回（前期・後期）記入する「自己査定（自己評価チェック）」をもとに園長が面談して、指導・アドバイスを行う仕組みがある。毎年受審する第三者評価も保育所の自己評価として活用している。 ・設置法人がエリアごとに開催する年齢別研修で得た他園での取り組みは、個々の職員が自身の振り返りに活用するほか、園長会議で得た他園の取り組みも参考にして業務改善に取り組んでいる。 ・手遊びなど現場で使える遊び歌の外部講師を招き、必要に応じて指導を受けられるしくみがある。 ・指導計画や週案の書式は設置法人が定め、前月・前週の振り返り欄を設け、常に子どもの姿・職員の姿、取り組む過程を大切に振り返り、次回に繋げている。 ・職員会議やクラス会議で指導計画の振り返りや職員の自己評価をもとに話し合い、年度末の職員会議で1年間の反省を行い、次年度への課題を話し合い、年度初めに今年度取り組む課題を明確にしている。今年度は、職員間及び保護者とのコミュニケーションを課題として取り組んでいる。 ・第三者評価を毎年受審して、理念や基本方針、保育課程に沿って振り返り、自己評価を行う中で、全職員・園の課題を抽出して、改善に取り組んでいる。 ・第三者評価結果は、横浜市ホームページ等で公表している。
<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人が作成する「人材育成ビジョン」があり、一般職員と管理職員に対する役割を期待水準として具体的な項目をあげて示している。 ・日常の保育は各職員が利用者の状況に応じて判断して進めており、事後、園長に報告するシステムになっている。 ・園長は、職員会議で業務改善の提案を聞く機会を設け、またフロアリーダー会議で出た意見や要望を聞いている。 ・園長は随時職員面談を行うほか、年2回の定期面談で、職員の満足度や要望などを把握している。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務マニュアルや就業規則に倫理規定があり、職員がいつでも振り返れるように事務所に保管している。また、入社時に法人代表による法令順守、倫理などについて研修を受けている。 ・設置法人のホームページで経営・運営状況が公開され、誰でも見ることができる。 ・定期園長会議で報告される他施設で発生した不正行為などの情報を全職員に周知徹底し、不正防止を啓発している。 ・ゴミ減量化、リサイクルの取り組みとして、保護者の協力を得てエコキャップ運動に参加し、また、廃材を日常保育に利用しているほか、段ボールを自治会の資源ごみ回収に提供している。 ・待機電力チェックリストを活用し、電気をこまめに消すなど省エネに努めているが、子どものための快適空間の維持を最優先している。 ・設置法人のホームページや省エネに関するポスターで、環境に関する考え方を職員や利用者に周知し、各園での取り組みに活かしている。 <p><工夫している事項></p> <p>園目標に「みんなの町をきれいにしよう」を掲げ、散歩時、公園のゴミ拾い等に子ども達と一緒に取り組み、子ども達に環境への配慮を意識付けている。</p>
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針、園目標を玄関に掲示し、また、運営理念などが記載されている冊子『明日への保育』を職員に配付し周知を図っている。 ・園の理念や目標は、入社時に園長が面談して話すほか、保育実践の中で理念が実現されている例を職員会議などで確認している。 ・重要な意思決定について、職員会議や保護者会で意見交換して要望や意向を確認し、決定に際しては、その目的、決定理由、経過などを、職員には職員会議で説明し、保護者には、保護者会や文書で知らせている。 ・園の行事やクッキング保育の内容を決める時には、栄養士、職員が協力して進め、また、設置法人に発達支援、食農、専門講師（体操など）などの専門職がおり、必要に応じて相談できるようになっている。 ・設置法人に主任クラスを養成する研修があり、基づきスーパーバイズできる主任クラスを計画的に育成している。 ・主任はフリーとして各クラスの状況を把握するほか、シフト表作成時に個々の職員の業務状況を把握している。 ・主任は非常勤職員やパート職員に声かけし、各職員に適した助言や指導を行うほか、健康状態、悩みごとなどを把握し、相談に乗るほか、体調不良の職員に変わってクラス運営に入ることもある。

VI-3 効率的な運営



・事業運営に影響のある情報収集、分析は設置法人の担当部署で行い、収集・分析された情報は園長会議で検討され、園に持ち帰り、必要に応じてリーダー会議や職員会議などで話し合っている。

・重要な改善課題として、今年度は職員間及び保護者とのコミュニケーションを挙げ、職員全体で取り組んでいる。

・「中長期的事業計画」（24年度から28年度まで）として、清潔・遊びなどの項目別に目標を設定し、半期ごとに反省を行うことになっている。

・次代を担う幹部職員教育は、設置法人で計画的に実施して人材の育成を図っている。

・設置法人は、事業運営について業界関連機関や専門機関などから積極的に意見を取り入れ、園運営に反映している。

利用者家族アンケート(アスク戸塚保育園)

結果の特徴

【アンケートの送付数、回収率など】

アンケート送付数:48通
アンケート回収数:23通
回収率:48%

【結果の特徴】

問1. 基本理念や基本方針について

「よく知っている」「まあ知っている」の合計が79%であったが、「あまり知らないが」17%あった。その内「共感出来る」「まあ共感出来る」が78%あり内容は理解されていた。

問2. 入園したときの状況

「満足」「まあ満足」が82%以上あったが、4%が「不満」と回答している。

問3. 保育園に関する年間の計画について

「満足」「まあ満足」が74%以上あるにも拘わらず「どちらかといえば不満」「不満」と回答している。

問4. 日常の保育内容について(遊び)

「満足」「まあ満足」が87%あるが、戸外遊びについては13%が「不満」を表明している。改善の余地がある。

日常の保育内容について(生活)

「満足」「まあ満足」が90%ある。

問5. 保育園の快適さや安全対策について

この項目については「不満」「どちらかといえば不満」が多く、特に「外部からの不審者侵入に対する備え」については39%の保護者が「不満」「どちらかといえば不満」と回答しており、何らかの対策を講じることが求められる。

問6. 保護者との交流・連携について

この項目については、行事開催日の配慮や送迎時の子どもの様子についての説明等については約30%が「不満」「どちらかといえば不満」と回答している。何らかの工夫改善が求められる。

問7. 職員の対応について

この項目では、子どもに対する対応については「満足」「まあ満足」が80%を占めているが、不満や要望が気軽に言える、不満や要望への対応について13~17%が不満と回答している。

問8. 総合満足度

78%が「満足」「どちらかといえば満足」が78%あるが、「どちらかといえば不満」が17%ある。全ての項目で改善や工夫について再検討することが望まれます。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	22%	57%	4%	17%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への共感	共感できる	まあ共感できる	どちらともいえない	あまり共感できない	共感できない	無回答
	63%	37%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	57%	30%	13%	0%	0%	0%
	その他:					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	35%	52%	4%	9%	0%	0%
	その他:					
園の目標や方針の説明には	44%	39%	4%	4%	9%	0%
	その他:					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	66%	26%	0%	4%	4%	0%
	その他:					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	53%	35%	4%	4%	4%	0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	44%	48%	0%	4%	4%	0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	44%	35%	17%	0%	4%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望	35%	39%	9%	13%	4%	0%

が活かされているかについては	その他:
----------------	------

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や園の遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	53%	43%	4%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	48%	39%	13%	0%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	39%	53%	4%	0%	4%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	52%	39%	9%	0%	0%	0%
	その他:					
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	53%	39%	4%	0%	4%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	39%	53%	4%	0%	4%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食のメニューの充実については	74%	22%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	61%	30%	0%	0%	9%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み	70%	17%	9%	4%	0%	0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	53%	39%	4%	0%	0%	4%
	その他:					
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	52%	26%	4%	9%	9%	0%
	その他:					
お子さんの体調への気配りについては	61%	35%	0%	4%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	57%	35%	0%	4%	4%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
園舎、園庭などの施設については	17%	53%	22%	4%	4%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	26%	57%	13%	4%	0%	0%
	その他:					
外部からの不審者侵入に対する備えについては	22%	39%	26%	13%	0%	0%
	その他:					
衛生管理や感染症対策については	43%	53%	4%	0%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	39%	49%	4%	4%	4%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	49%	43%	0%	4%	4%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	40%	30%	17%	13%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	30%	40%	17%	13%	0%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	36%	43%	13%	4%	4%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	35%	48%	13%	4%	0%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	57%	35%	4%	0%	4%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされてい	48%	40%	4%	4%	4%	0%

るかについては	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	53%	43%	4%	0%	0%	0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	その他:					
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	53%	26%	0%	0%	21%	0%
不満や要望への対応については	その他:					
	57%	22%	0%	17%	4%	0%
	その他:					
	26%	48%	9%	13%	4%	0%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	35%	44%	17%	0%	4%

観察方式による利用者本人調査

アスク戸塚保育園

0歳児

◇遊び

0歳児の保育室は、子ども達が、睡眠をとったり落ち着けるベビーベッドやラックを備えた場と、活動の場を分けている。子どものペースを大切にし、午前中でも寝ている子がいる。遊びスペースでは大きなビニールプールに色とりどりのボールを一杯にして遊んでいた。手を伸ばして触ったり投げたり、自分からプールに入ってボールを取りに行く子もいる。プール遊びだったが、体調の関係で入れない幼児も来て、小さい子と一緒にボール遊びを楽しんでいた。

◇食事

職員が子どもと1対1や1対2で子どもの横に座って介助している。ベテラン職員が、新人職員に配膳の仕方や食べさせ方を教えている。のけぞっている子には、「ここにあるよ」とおかずを見せながら食事に誘い、目がトロンとしている子は、「眠いの？さっき寝たね、もぐもぐ」と声を掛けられ、食事に集中し始めた。職員がご飯をすくったスプーンを手を持たせてもらい、自分で食べるように促されて自分で口に運ぶなど、職員の支援を受けながらそれぞれのペースで食事をしている。

◇午睡

床に布団を敷いて寝ている。職員にお腹をトントンしてもらっている子や、眠れずにハイハイして遊んでいる子もいるが、ほとんどの子は、カーテンを引いた静かな環境の中で休んでいる。職員は子どもの様子や呼吸を観察して記録しながら子ども達の寝ている様子を見守って、うつぶせ寝している子は丁寧に仰向けに戻している。

1歳児

◇散歩

散歩に行くので、子ども達は保育室から出てきて自分の靴を靴箱から出したり職員に取ってもらい、玄関に座って靴をはく。「はけたかな？」職員は1人ひ

とりの子どもの手の運びを見て、声かけしている。靴についているマジックテープの付け方がわからず、迷っている様子の子は、「マジックテープペタン〜」と、職員に教えてもらい、自分で一生懸命付けようとしている。まだ一人ではできず、職員にはかせてもらっている子もいる。

職員は、準備ができた子から靴がしっかりはけているか順番に点検している。子ども5人と、まだ歩行がおぼつかない一人の子は職員におぶわれて散歩に出る。

膳場公園につく。子ども達は職員から注意を聞いてから公園に散らばって遊び始める。遊びの中で「や〜だ」と言っている子には、「こっち空いてるよ」「○○ちゃんがおいでって言ってるよ」等と、職員は遊びに入っていく子に声をかけている。花壇のおしろい花を見つけた子どもたちに、「水に入れると色がつくんだよ、今日は取らないお約束」と話している。かけっこや公園の草花を観察し、水分補給をして、「帰りも元気をお願いしますね」と職員に声を掛けられ、みんなで「は〜い」と大きな声で返事をしている。「ひまわりさんバイバイ」「公園バイバイ」と挨拶して園に向かう。

園に着くと順番にシャワーを浴び、さっぱりとして着替えている。自分で着がえたり、後ろ前に着てしまっている子は直してもらい、着がえ終わった子から絵本を見ている。

◇食事

テーブルに座って配膳を待っている。食物アレルギーのある子のためにテーブルを他の子と少し離して置いている。アレルギーの子のお代わり用も別に用意している。エプロンをつけてもらい、いただきますの歌を歌ってスプーンで食べ始める。まだしっかり持てない子もおり、職員に、「持ち方、反対だね」と言われて持ち替えて上手に食べている。

2歳児

◇遊び

天気の良い暑い日で、園庭でプール遊びをしている。水を掛けたり、水につかって楽しんでいる。遊び終わってプールから出る。職員がプールを片づけているのを一緒に手伝っている子は、最後の水を出すのに、「よいしょ、よいしょ」と手を添えている。職員から「手伝ってくれてありがとう」と褒めてもらい、嬉しそうな笑顔で部屋に戻って行った。プールから出でサンダルをはいている子は、「かっこいい」「じょうずだね」と声を掛けられ、満足げだった。クラスに戻ってトイレに行き、シャワーでさっぱりしてから着がえていた。

◇食事

やや縁の深いすくいやすい皿が用意され、フォークを使って食事をしている。お皿を見ながら、「これなに?」「ブロッコリーだよ」「おいしいね」「う～ん?」などと子ども同士で話しながら食べている。職員が、「ポテトもあるよ」「食べたいお皿を前に持ってくるよ」「お代わりもあるからね」等と、子ども達に声をかけている。

<3-5 歳児合同のプール遊び>

きりん組(3歳児クラス)、ぞう組(4歳児クラス)、らいおん組(5歳児クラス)全員で園庭のプールで遊ぶ。

子どもたちは、各自プール遊びに必要な水着、タオル、帽子、サンダルの入ったプールバックを取りに行く。保育室でズボンを脱ぎ、水着を持って、順番に着替えをする。職員は着替えを見守りながら、「上手にできたね」と子どもの着替えを促す声かけをしている。手洗い場で手洗いをした後、子ども達はクラスごとに全員一緒に席に着く。「タオルありますか」、「サンダル持っていますね」と持ち物を確認し、出発前の点検を行う。職員は子どもの名前を呼んで人数確認をし、チェック表に記入する。らいおん組では、はしゃいでいる子もおり、職員がクラス全員を集めて、水の怖さを告げ、「プールでふざけているとどうなりますか」「プールの中で足を滑らせて転んだらどうでしょう」と子どもに質問し、事故につながらないように注意をしていた。

玄関で、再度子どもの名前を呼んで人数の確認をして2列に並び、裏の園庭まで出かける。園庭にはビニールプールが3つあり、ぞう組、らいおん組の3グループに分かれてプールに入る。体操をし、シャワーで身体を濡らしてからプールに入る。職員も子どもたちと一緒にプールに入っている。面つけ、ばた足をしている子に「息が続くようになったね」「上手に出来たね。水泳選手みたい」と声をかけ、それに対し「よっしゃー!」と自慢げにガッツポーズをする子どももいる。

プール遊びが終わって、再び2列に並んで園に帰る。帰園後、シャワーで身体を洗い、着替えをしてクラスに戻る。

当日、熱がありプール遊びができない子はクラスに残り、ブロックや、絵本を自分で出して遊んでいた。

5 歳児

◇食事

各クラスに分かれて、テーブルに着き、昼食をとる。年長のらいおん組は配膳の手伝いをしている。当日のメニューはポークビーンズ、マッシュポテト、ブロッコリー、スープ、ご飯。おかずだけを先に食べている子には、職員が「ご飯も一緒にたべようね」と片寄った食べ方ををしないよう促していた。子どもたちは、隣の子とおしゃべりをしながら食事をしている。職員は子どもたちと一緒に食事をして、食事の進まない子には「もう少し食べてみようか」と声をかけているが決して無理強いせず、子どものペースを見守っている。完食した子には「ぴかぴか！」と大いに褒めて達成感を味わえる声かけをしている。

◇午睡

食後、テーブルや椅子を片づけて、午睡の場を作る。その間、子どもたちは歯磨きをして、パジャマに着替える。子どもたちが眠りにつく前に、職員が絵本の読み聞かせをしている。眠れない子には職員が背中をトントンして睡眠を促すが、眠れない場合は自分の布団で静かに横になっている。

【受審の動機】

アスク戸塚保育園は、開園 7 年目を迎えました。これまでの園運営を振り返り、今後の課題を見出すために有効な手段だと考え、毎年第三者評価を受審させて頂いております。開園初年度より同じ評価機関に評価を依頼し、一貫した調査を受けることで比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけると感じております。今年度も、保護者のニーズを把握する絶好の機会、また、同時に職員が自己・自園を見直す良いきっかけになると考え、受審いたしました。

【受審した結果】

今回の評価をもとに、今までの保育を見直す良い機会となりました。今後の保育にも参考にさせていただき、より良いものとしていきたいと思っております。保護者の方々のアンケート結果では保育園に対してのご理解、ご期待を感じる事ができ、私たちのこれからの保育の励みとなり、とても嬉しく思いました。また、地域への解放、子育て支援の充実、保護者の方々の園運営への関わりにつきましても、今後も園の課題としてまいります。最後に今回の受審にあたりまして、ご利用者調査にご協力いただきました在園児の保護者の皆様、ご尽力いただきました評価機関の皆様に心より感謝申し上げます。